

農場視察研修(前編)



弊社として初めて、社員旅行を兼ねた視察研修が行われました。これまでも特定の目的のもと農家さんと同行しての視察や、アメリカへの視察はありましたが、今回は初めて2つの班に分かれて、事務員を含めた社員全員参加の視察研修旅行でした。

訪れたのは十勝～富良野周辺の酪農場で

A 班は搾乳頭数 1400 頭規模のメガファームと、サンドセパレーター（敷料用砂のリサイクルシステム）や HACCP 導入など先進的なことを取り入れる 400 頭規模の牧場の 2 軒

B 班は搾乳頭数 760 頭をフリーバーンで管理する大規模牧場と、ロボット搾乳を行う牧場でメーカーの異なる 2 軒の比較で合計 3 軒

僕が参加した A 班で視察した感想等について、今月と来月にわたって報告したいと思います。

【A-1】(A 班一軒目)

<概要>

肥育農家からの事業拡大で、4 年前から酪農事業に取り組み、100 頭から始まって搾乳頭数 1400 頭規模まで拡大。搾乳牛はほぼすべて導入牛で 50 ポイントロータリーパーラーでの搾乳に、一部パラレルパーラーを併用。敷料は戻し堆肥。

<メモ>

分娩後と乳房炎スコア 2 以上はすべて検査機関に乳汁検査を依頼し、乳房炎コントロールに妥協がなかった。敷料の戻し堆肥は、肥育農場と堆肥をやり取りしながら、攪拌とエアレーションで小分けに切替し、常により良い戻し堆肥を供給できるよう工夫している。

常に導入牛が入ってくるので、伝染病の防除にも日常的に緊張感をもっている。

規模が大きいことに加え、少しでも牛に良いことは取り入れようという前向きな雰囲気のため、研究機関からの協力依頼が多く、挑戦的に試行錯誤している姿勢が印象的だった。この背景には、一つ一つの

実験から農場側も何かを学ぼうという気構えと、決めたことは正確に遂行するという信頼感が、よりポジティブな提案を呼び込んでいるように感じた。同時に、農場内に出入りする人間が多方面にわたって非常に多いため、隅々まで整頓されて綺麗だったことも印象的だった。



<感想>

このように、様々な数字やシステムの上で特記すべきことも多くありますが、それ以上に印象的だったのが従業員の能動的な活躍と責任感でした。それぞれの役割分担に対して、作業ではなく創意工夫と試行錯誤を当たり前に行う雰囲気にあふれていたのです。牛舎見学後のディスカッションでは、従業員からの質問やこちらからの投げかけに対してどんどん議論が広がること、自分の分野での管理すべき数字を従業員がきちんと把握しているし、それらを改善しようという姿勢が当たり前であることが気持ちよくさえありました。

これらポジティブな行動を支えているのは、各部署での理念と目標設定が明確な数値管理の下で行われ、適材適所で働く全員の能力を最大限引き出すことに経営者が責任を持って取り組んでいるということが重要であると感じました。たまたま優秀な人だけが集まるのではなく優秀な人が残るような農場であること、報酬を能力に見合わせて上げるなど、レベルの高い人が農場と一緒に成長していける環境があることは、これから様々な企業が農業分野に進出してくる競争相手となることを見据えれば、決して軽視できないテーマではないでしょうか。偶然ながら、この牧場も今年初めて、いくつかの班に分かれて社員全員参加の慰安旅行を実施したそうです。

大規模農場だからできることもあります。人を雇うということや、家族も労働者であるということ考えた時に、なにかヒントになることがあれば幸いです。

つづく



何棟もの牛舎とパーラーや分娩房をつなぐ農場デザインは、BCSによる厳格なペン移動を行う上で重要な要素だと再確認しました。



ロータリーパーラーの最後には、DD 予防に足を洗浄するシャワーと、マイコプラズマ対策でライナー洗浄のバックフラッシュ。



気付けば、もう年末です。そう思っている間に慌ただしく年が明けてしまうのでしょうか。本格的な雪と凍結への準備は済んでいますでしょうか。良い年を迎えるため、吹雪や隙間風への対策、仔牛のジャケットやヒーターをすぐに使える場所に用意する、そしてかじかむ冬に人間が作業事故や風邪などないように、しっかり準備し、ご自愛くださいませ。

てらうち